

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2771100894		
法人名	社会医療法人 慈薫会		
事業所名	グループホーム大阪緑ヶ丘		
所在地	大阪府岸和田市神須屋町662-2		
自己評価作成日	平成 28年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 9月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvsoCd=2771100894-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 8月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな環境の下、医療、福祉両面での体制が整っています。職員は、利用者一人、ひとりの体調、思いを観察、お一人ずつの生活を築いています。利用者・職員共に明るく、生き生きと暮らしています。職員は、利用者の笑顔が自慢です。カフェや共用デイ実施において、グループホームの認知症ケアの力量を培い、地域にグループホームの存在が徐々に浸透してきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、地域に貢献している社会医療法人が運営するグループホームです。季節の移ろいを感じられる自然豊かな敷地に建てられた介護老人保健施設に併設しています。母体の社会医療法人との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がっています。フロアや各居室からは雄大な自然風景が拡がり、ホーム全体が穏やかでゆったりとした雰囲気です。管理者は、「日本認知症グループホーム協会」の役員として、先駆的・先導的な役割を果たしながらサービス向上に努めています。「自分たちの関わり方で利用者の生活が変わる。いい人生が送れたなど言ってもらえるように」と、職員が利用者一人ひとりを大切に思う気持ちを介護を通して表現する日常のケアは、利用者・職員の生き生きとした表情に伺えます。家族会があり、家族の満足度も高いホームです。共用デイ(共用型認知症対応型通所介護)や認知症カフェの実施等、地域の中での生活を大切にする取り組みにも積極的に取り組んでいます。「職員が利用者のことを一番に考えていることが私たちの自慢です」との職員の言葉に、サービスの質の高さを感じることができるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・家族・地域の皆様・職員が連携し、日々の暮らしを築いている。地域で生活する事の意義を職員全員が認識し生活支援に努めている。	開設時に定めた理念を、事業所の運営やサービス提供の拠り所として、実践しています。理念は、各ユニットに掲示し、来訪者にも理解してもらうようにしています。理念の内容を具体的に項目化した「事業推進目標」も作成しています。 職員は理念をよく理解し、利用者の尊厳を尊重した支援を実践しています。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に参加している。地域の行事(盆踊り 祭り)に参加、又当施設の行事(夏祭り 文化祭)に参加いただいている。認知症カフェにも参加あり。	町会に参加し、地域の行事予定等の情報を得ています。町内のイベントには積極的に参加しています。盆踊りでは、車いすの利用者も踊りの輪に入り、90歳を超えての参加に拍手をもらいました。また、中学生の体験学習を受ける等、子どもたちとふれ合う機会も設けています。 バイオリン演奏・人形劇・書道等のボランティアの協力で、より利用者の楽しみと交流が得られています。 共用デイや認知症カフェの実施等、地域の中での生活を大切にする取り組みにも積極的です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>・認知症相談支援センター 1/月 ・認知症カフェ 2/月 ・共用デイ実施 認知症についての相談窓口となり支援につながっている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者状況・活動状況の報告をしている。その中で、アドバイスを頂いている。</p>	<p>民生委員、市職員、家族代表、介護相談員の参加メンバーで、2ヶ月に1回開催しています。利用者の生活や運営状況などを報告し、意見交換を行い、参加者から評価や助言を得て、事業所の運営に活かしています。 会議録は玄関に設置し、自由に見てもらっています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村職員に運営会議に参加いただいている。利用者の過ごし方も見学いただいている。不明な点は電話にて、直ぐ回答いただいている。事故報告、会議報告等敏速に行っている。</p>	<p>市の担当者とは、いつでも相談できる関係にあります。ホームを市主催の研修場所や現場実習受け入れ事業所として活用してもらうなど、協力関係を築いています。市の事業者連絡会の会合・研修にも参加しています。 近隣の5市1町相談事業による認知症相談支援センターにも参加しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護・身体拘束に関する内部研修を実施、共有認識を図っている。不適切ケアの振り返り、利用者の一人ひとりの状況を観察、抑圧感のない日々の暮らしを支えている。	開設当時から、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。身体拘束防止マニュアルを作成し、研修も実施しています。玄関・エレベーター・階段などすべて開錠しています。 定期的に、不適切ケア一覧表で自己評価を行い、再確認しています。虐待や不適切ケア防止のために、職員のストレスにも目を向け、働きやすい職場環境作りに配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修を実施している。職員全員が周知している。責任者が虐待が起こらない職場環境に配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば、参加したい。社協の後見人制度を利用し金銭の管理をして頂いている。現在成年後見制度申請している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明の上、署名・捺印を頂いている。改定があれば書面にて説明、同意を得ている。利用者の状態変化に応じ、家族と話しあっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置、年1回家族会開催、家族アンケート実施している。プラン見直し時意向確認書添付、頂いた意見をミーティングやカンファレンスの場で話し合いをしている。	職員は、家族の面会の際や介護計画作成時に利用者の日々の様子を伝え、家族の意見や要望を聞く機会を持っています。年1回開催の家族会の前半は、日常の楽しみを共有してもらうため、利用者と家族と一緒にゲームを楽しむ時間を設けています。 後半は、事業所の共用デイや認知症カフェの取り組みや看取り、延命治療について等、幅広い話し合いが忌憚なく行われています。 家族と共に過ごす時間を大切に支援し、外泊や家族と食事にでかける利用者もいます。	事業所から毎月家族に送付している「おたより」に職員が利用者の暮らしぶりがわかるようなコメントを載せてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の思いに配慮、勤務体制を整えている。意見提案があれば、ユニットリーダー、または管理者に相談している。	ユニットリーダーや統括責任者は職員の相談、提案を聞く機会を設けています。提案や意見は月1回行われる主任会議で話し合い、運営の改善に繋がっています。勤務体制の希望や変更もお互いにフォローし助け合う体制ができています。統括責任者は日常的に何でも話し合える雰囲気大切にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の力量に応じ、やりがいを感じる様に業務分担を考えている。自信を持ち、喜びを感じる様、職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加可能な限り、研修受講を勧めている。そのために必要な勤務体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会、大阪認知症高齢者グループホーム協議会、岸和田市介護保険事業者連絡会に加入し、ネットワークが出来ている。グループホーム大会に毎年参加、全国のグループホームとの交流の機会になっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人にとっての安心を第一に考えて、ケアの方針を立てている。入所前には、共に過ごす機会を作り、職員との関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時、家族の思いを聞き、要望に対しての検討をしている。入所後は細やかに報告、思いを聞き、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを聞き、当面のケアプラン作成、必要に応じ検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意味を職員が、持ち、利用者の出来る所を活かした生活スタイルを築いている。日常がとても職員共に、和やかな雰囲気である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の家族様と共に、入所の皆様・職員が楽しく会話、時には食事も共にされている。外泊・外出もあり、家族関係を尊重、協力もいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っていた集いの場への外出、又訪問への協力もしている。	利用者が入所前から通っている認知症の会への参加やお寺へのお参りなど、馴染みの場との関係が途切れない支援を行っています。また、利用者が家族や親せきにハガキや手紙を送付するお手伝い等の支援もしています。認知症カフェでは、昭和の時代背景の紙芝居で、懐かしさを共有しました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の場所を提供したり、職員が輪をとりもったり、和める環境づくりをしている。利用者は、ユニット間を自由に行き来している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時はきめ細かく、アセスメント情報を提供している。退所後も家族からの電話を頂き家族様の思いを傾聴している。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いを傾聴、又、伝えられない方には本人の視点にたつて、意見を出し合い、ひとりずつに応じた暮らしを大切にしている。	日常気づいたことは申し送りノートに記載し、重要な部分はマーカーを引いて、職員の共有を図っています。 裁縫が好きな利用者が職員の名札を縫ったり、雑巾を縫ったりと利用者一人ひとりの長年馴染んだ生活や希望を尊重した暮らしを大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集や、家族に「暮らし情報シート」作成して頂き、参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしのリズムを把握し、出来る事、出来ない事の築きを書き留め、カンファレンスで話し合い、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>複数職員でモニタリング、カンファレンスの記録をケアプランにつなげている。家族も同席の機会を作り、関係者の意見を反映したプランを立てている。</p>	<p>家族にサービス計画書と意向確認書を送付し、家族からの意見や要望を反映させたプラン作りを行っています。カンファレンスは月1回複数の職員で気づきを話し合い、ケアのポイントを決めています。介護計画は6ヶ月に1度、または必要に応じてモニタリングを行い、計画の見直しをしています。計画書の項目には趣味や興味、関心、嗜好、おしゃれ、馴染みのものや道具等、心身の状況だけでなく、暮らしの中の細やかな課題や目標も盛り込み、一人ひとりの個性を活かした介護計画となっています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録(支援経過・申し送り) 気づきをカンファレンスに持ち寄りケアプランにつなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の思いを優先、地域や法人内との連携の下、必要な支援に取り組む姿勢である。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティア、かかりつけの病院等の協力を頂き、健康で豊かな暮らしへ支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に添っての主治医の受診を受けている。受診の際は受診記録に状態報告医師からも返信を頂いている。	入居時に利用者・家族の意向を確認しています。希望があれば入居前のかかりつけ医に受診可能ですが、ほとんどの利用者が同法人医療機関をかかりつけ医として選択しています。併設の介護老人保健施設の看護師が健康面の支援にあたっています。夜間の緊急対応も併設施設と連携がとれる体制で、利用者・家族・職員が安心できています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化があれば、看護師に伝え、早期の対応に努めている。家族の希望があれば、訪問看護と契約、適切な看護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、病院関係者に家族と共に状態を聞き、本人家族の希望に添い、最善の方法を検討している。病院関係者と連携の下、情報を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に関わる指針」を整備、家族に説明、署名捺印を頂いている。状態の変化に伴い家族の意向を尋ね、希望に添った支援に取り組んでいる。	入居時に、利用者・家族へ終末期の支援方針を説明しています。「重度化した場合における対応に関わる指針」を整備し、同意を得ています。利用者が重度化した場合、家族と改めて話し合い、意向を確認しています。 看取りの際には、訪問看護の協力が、職員の不安を軽くしてくれています。 職員は、ホームでの看取りの経験から貴重なことを学び、日常のケアに活かしています。	今後、職員の不安や整備して欲しいことなど出し合い、現場に即したマニュアルの改訂をされてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル整備しているが、実践力をつける為の勉強会をしたいと思っている。たんの吸引研修受講職員1名あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災センターの協力を得て、利用者と共に年2回避難訓練を実施している。災害対策の手順書、緊急連絡体制、火災報知器、スプリンクラーの整備が整っている。併設施設との協力体制が出来ている。非常食も保管している。	防災センターの協力を得て、年2回の避難訓練を実施しています。併設施設との協力体制があり、夜間を想定した訓練も実施しています。災害対応マニュアルは、地震・台風・火災に分けて作成しています。火災の原因となりやすい、コンセントの清掃も定期的に行っています。 非常時用の水や食料の備蓄も準備しています。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人の気持ちを大切にプライバシーに配慮しながら、支援している。カンファレンス時においても、その意味と実践を振り返っている。	利用者一人ひとりを大切にしたケアを実践しています。「人権尊重」と大きく書いて、ホーム内に掲示しています。また、「事業推進目標」の一番目に、プライバシーの尊重を掲げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に職員と共に過ごし、思いの把握に努め、希望に添っての援助を行っている。表現できない方には、表情のしぐさで思いを聞きとる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りながら、状態に応じ、適した関わり、ペースを尊重した生活へ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを伺い衣類をセッティング、おっしゃれ心のある方は、その気持ちを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る場面を活かし、職員と共に食事づくりをしている。誕生日には、その方の希望のメニューを、皆で作っている。	併設する介護老人保健施設の厨房で副菜が調理され届けられます。ご飯と汁物はホームで作っています。農園で採れた野菜を使って1品加えることもあります。エプロンをつけて生き活きた表情で職員と一緒にキッチンに入っている利用者もいます。他にも、ボードに献立を書く、献立を読み上げる、テーブルを拭くなど、それぞれの役割を担っています。 外食に出かけたり、餃子やお好み焼きを作ったり、食事を楽しむ工夫をしています。 職員は同じ食事を食べながら、さりげなくサポートしています。 あちこちから「美味しい」と声が聞こえる食事風景です。 農園で採れた大根で利用者・職員が作った切干大根は、まわりからも好評を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足や栄養の偏り、水分量の把握等職員が一日を通して観察している。一人ひとりに応じた食事形態を考え、食べる楽しみを感じて頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、セッティング、その方に応じた口腔ケアを援助し、記録している。自力を見守り、不足部分は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子をキャッチして、自尊心に配慮し、身体機能に応じた介助を行っている。便座へ座位することで、排泄での認識をして頂くように関わっている。	トイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表で、利用者の排泄パターンを把握し、自立行為を優先しながら見守り、一人ひとりに必要な介助を行っています。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者には、日中部屋にポータブルトイレを置かない配慮もしています。 入居時、夜間はオムツを使用していた利用者が、随時の誘導で布パンツ使用になったケースがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況観察。水分補給、散歩実施バランスのとれた、規則的な生活の中で便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望を尋ねて、実施している。返答困難な方には、隔日に入浴して頂いている。拒否があれば、無理強い無く、時間を置いて気持ちを尋ね、寛いだ入浴実施へ配慮している。	隔日の入浴となっています。利用者の体調や気分に合わせて、無理なく楽しく入浴できるように支援しています。浴室は、広く明るくゆったりと入れる大きさです。 菖蒲湯やゆず湯など、季節ごとに楽しんでもらう工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠への支援は一人ずつの状況に応じて援助している。前夜の様子やその日の疲れにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬内容ファイルに記録職員皆周知している。投薬マニュアル実行、症状の変化は主治医に報告、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた、役割りを決め、自信のある生活を築いている。趣味活動や楽しみごとの場への協力もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出したり、地域の行事に参加している。地域へ出かけたときは地域住民の方の協力を頂いている。	利用者は、法人内の広い敷地を自由に散歩しています。近隣の農家の方との交流があり、野菜や果物の収穫も利用者の楽しみとなっています。ドライブで季節を感じてもらい取り組みも行っていきます。隣接する介護老人保健施設へ毎日のように出かける利用者もいます。外食や買い物、季節の花見など、積極的な外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればお金を所持して頂いているが、家族の希望に応じて職員が管理している。その場合収支明細は毎月家族に報告している。外出時買い物意向があれば、それに応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から電話や手紙を頂いている。電話で話したり、手紙を頂いたとき返信されている。年賀状は毎年皆様自筆で書かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者同士思い思いの場所で過ごされている。ユニット間も行き来されている。お一人で過ごされる方は、マイペースを尊重見守りしている。	明るく広い開放的な共有スペースには、様々な所にソファを置き、利用者は好きな場所で思い思いにゆっくりと過ごしています。各テーブルには花が飾られています。壁には、利用者の書道作品、切り絵、行事の時の写真が飾られています。大きな窓からは四季の移り変わりを感じることができます。ベランダには花を植え、水やりは利用者の役割です。 リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。各ユニット間も自由に行き来でき、利用者同士の交流もできています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームはところどころにソファを配置、利用者は気に入った場所でくつろがれ自由に過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持ってこられ、好みに応じた一人ひとりの落ち着いた居室になっている。利用者自身花を生けたり、写真を飾られたりしている。	各居室は明るく、自然が眺められる居室の作りになっています。利用者は、机や椅子、テレビ、書棚、時計など、馴染みの家具を置き、手作り作品や写真、ぬいぐるみを飾るなど、それぞれ個性的な居室になっています。 居室を見せてくれた利用者の表情から、その人らしい暮らしを支えるケアを見ることができました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境に気配りしながら出来る力をいかした日々の支援をしている。役割り分担表を作り、利用者は自分の役割を感じ、自信を持って過ごされている。		